

国語プリント No. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

ハヤリとシキタリ 事実と意見

次の表現は、「事実」か、「意見」か。事実であれば「事」と、意見であれば「意」と () に記しなさい。

- () ハヤリとシキタリには似たところがある (1 段落)
- () ハヤリとシキタリの共通点の一つは、どちらも普遍性を欠いた、その意味でローカルで特殊な文化だという点である。 (3 段落)
- () シキタリと呼ばれるものがローカルティと結び付いている (4 段落)
- () 年取り魚として大みそかに鮭を食べるのは東日本のシキタリであって、関西や中四国・九州はそうではない。 (4 段落)
- () 「世界的流行」がしよせん先進諸国の一定以上の経済力を持つ階層だけのものであったりする。 (5 段落)
- () ハヤリは過去の人々とは共有されていない (5 段落 一部改編)
- () それ以上に重要なのは、ハヤリは決して過去の人々とは共有されていないということである。 (5 段落)
- () ハヤリとシキタリのもう一つの共通点は、どちらも実利性や合理性では説明のできない行動様式を正当化することである。 (6 段落)
- () 日本人の多くは今でも正月に餅を食べる。この行動を実利性で説明することはおよそ困難である。 (7 段落)
- () 現実に社会の中でこの行動様式を保持し、継承させているのは、シキタリであること、つまり昔からそうしてきたのだ、というただ一つの理由なのである。 (7 段落)
- () しかし実はこれは意外と新しいことで (8 段落)
- () 戦前の農村の野辺送りの写真を見ると、特に女性たちは皆白無垢の着物に白いかぶり物をして加わっている。 (8 段落)
- () シキタリの最たるもののように思われている神道式の神前結婚にしても、十九世紀の末に創出されたものであって、その後も村落部ではより伝統的な人前結婚、つまり神様を介さない祝言の挙げ方が長く続いていた。 (8 段落)
- () シキタリであることは歴史的な深度を保証するものではない。 (8 段落)
- () そして、そういう場合に、その選択を最終的に説明するのは、「ハヤっているから。」のひと言である。 (9 段落)
- () そういう方法で正当化されるしかないのは、結局、その行動様式が合理性や実利性と乖離している、言葉を換えれば、なんらかの恣意性を内包しているからにほかならない。 (10 段落)
- () シキタリを保持している集団がイエ(家)とか同族・ムラ・民族のように血縁でつながっていると思われているとき、行動様式を共有する先人たちは「先祖」と呼ばれるだろう。 (11 段落)
- () 文化は約束事の体系である。 (12 段落)